

ウェブサイトのご案内

当社ウェブサイトの「株主・投資家情報」では、決算短信等のIR情報をご覧いただけます。

<https://www.kawada.jp/ir/>

川田テクノロジーズ

検索



TOPページ

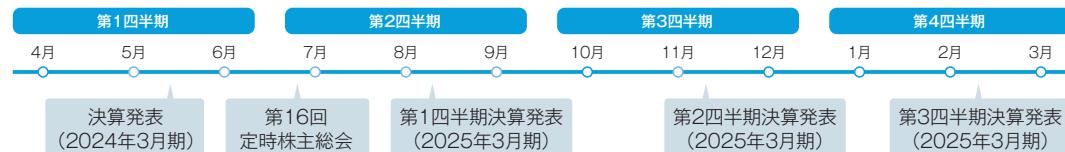
Click!



IRページ



IRカレンダー



Headline

●特集● 北陸新幹線 金沢-敦賀間 開業 P11



KAWADA REPORT

東京愛らんどシャトル AW139型ヘリコプター

第16期 株主通信

2023年4月1日 >>> 2024年3月31日



事業紹介

幅広い分野に広がる川田グループのビジネスフィールド

川田グループは、様々な事業分野で付加価値を創造し、社会に安心して快適な生活環境を提供しています。



- ① 鋼製橋梁 鋼を主材料とした橋梁です。国内外の主要な長大橋建設に多数実績があります。
- ② PC橋梁 プレストレスト(圧縮力)を導入したコンクリート製の桁を使用した橋梁です。
- ③ プレビーム橋 プレビームとは、鋼桁とコンクリートの合成桁で桁高が制限される場合に適した橋梁です。
- ④ SCデッキ(合成床版) 鋼とコンクリートの合成床版で、自動車や人を直接支える主要な部材です。
- ⑤ 床版取替え 既設橋梁の老朽化に伴う床版取替工事の実績を着実に積み重ねています。
- ⑥ ハーフプレキャスト 鉄道の高架工事において、列車の通行を妨げることなく営業路線上に施工ができます。
- ⑦ 橋梁用伸縮装置 様々な状況で発生する橋の伸縮を吸収し、自動車や人の安全な通行を確保します。
- ⑧ 橋梁補修・補強 既設橋梁をより強く・より静かに・そして環境に優しい橋梁へリニューアルします。
- ⑨ 建築鉄骨(製作・建方工事) 日本有数の超大型鋼構造物を製作から建方工事まで一貫して行います。
- ⑩ 建築 住居やオフィスなどの中低層建築のほか、世界一高い超高層大仏の実績もあります。
- ⑪ システム建築 短工期、低コスト・高品質で大空間を実現する平屋・多層階の工場・倉庫などの建物を提供します。
- ⑫ ハイパー・ブレース(座屈拘束ブレース) スレンダーな見栄えで、高い耐疲労性能を備えた耐震・制振用ブレースです。
- ⑬ プレキャスト建築梁・柱 鋼とコンクリートの合成梁(柱)です。工期短縮・高品質・作業環境の改善を図ります。
- ⑭ みどりちゃん(屋上緑化) 一般的な気象条件では水やりの必要がない本格的な庭園を屋上につくることができます。
- ⑮ Stand by みどりちゃん(壁面緑化) 植栽の入替が簡単で、効率的な貯水・水循環を実現した壁面緑化システムです。

- ⑯ エコマール(地下貯水槽) 雨水を一時的に地下に貯留することで、都市環境や人々の生活を水害から守ります。
- ⑰ ヒト型2足歩行ロボット 自力で立ち上がる!! 世界トップレベルの2足歩行ヒューマノイドロボットです。
- ⑱ NEXTAGE(双腕ロボット) ヒトと共存して働くことのできる製造現場用途向けの作業ロボットです。
- ⑲ ヘリコプター 報道や救助の現場で活躍中です。伊豆諸島の島々を結ぶ定期便も毎日運航しています。
- ⑳ 飛行機 東京(調布)と伊豆諸島を結ぶ定期路線や遊覧飛行、航空写真撮影などで活躍しています。
- ㉑ 土木・建築ソフト 建設用3D-CADや情報共有ソフトなどを提供し、土木・建設事業をITで支えています。
- ㉒ 太陽光発電システム システム建築と併せての導入が可能で、建築から施工までトータルサポートします。
- ㉓ 3Dデジタル溶接マスクシステム 溶接者の視野をデジタル技術で鮮明に映像化。溶接業界の抱える課題の解決に貢献します。

川田ならではのイノベーション力で「八方よし」の精神を育み レジリエントな企業集団を目指します。

本年1月の能登半島地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

ここに2024年3月期の営業状況のご報告と、「KAWADA VISIONの実現を目指し、レジリエント企業に変貌する」をテーマとし、川田グループを挙げて邁進している第3次中期経営計画の2年目に向けた取り組みをご説明させていただきます。

ぜひご一読賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長

川田 忠裕

Q 2024年3月期(第3次中期経営計画 初年度)の営業状況をご説明ください。

A 技術的な経験の蓄積と営業努力で初年度の実績は大きく進捗しました。

第3次中期経営計画初年度の売上高は1,291億円(前連結会計年度比9.3%増)、営業利益は87億円(同73.8%増)という結果となりました。計画初年度において想定より大きく進捗したこともあり、営業利益と当期純利益について目標数値を上方修正いたしました。

鉄構・土木セグメントについては、大型工事において想定以上の設計変更を獲得することができました。建築セグメント

では多層階物流倉庫等の手持工事が順調に進捗しました。もともと当社グループでは低層と平屋建てのシステム建築を得意としていましたが、拡大する多層階物流倉庫の市場にチャレンジを続けています。今後もお客様の要望に応えられるように経験を積み重ねて、技術力を磨いてまいります。

ソリューションセグメントでは、3次元CADソフトやクラウドサービスが非常に好調で、サブスクリプション契約を推進していることも、売上や収益の向上に貢献しています。

またソフトウェアをスタンドアロン型で販売するだけでなく、複数のソフトをつなげてお客様の利便性をより高める「フュージョン」という考え方を何年にもわたって追求し続けています。

川田グループで培ってきたノウハウを、ソリューションセグメントでは土木分野全般に幅広く提供することも可能で、更なる大きな展開が期待できます。

Q 中期経営計画に基づく事業戦略の進捗をご説明願います。

A 「GX、DX、グローバル」を追求し新たな切り口で成長の芽を育みます。

中期経営計画初年度が非常に好調だったので、2年目に向けて、よい滑り出しになったと思います。

鉄構セグメントについては、首都圏で大型プロジェクト、関西では万博関連、その他の地域でも大型半導体工場などのニーズがあります。ただし各種コストが上がってきているので、発注の見直しや延期のおそれもあり、予断を許さない状況が続いています。

土木セグメントにおいても、引き続き床版取替工事をはじめ潜在的に底堅いニーズがあるものと考えていますが、短期的には市場が縮小しており、競争が激化しています。

ソリューションセグメントでは、生成AI、ChatGPT等新しい技術や変化に柔軟に適応したいと思っています。これらの

技術が発展すると、「人の仕事が失われる」という考え方もありますが、むしろ「新しい付加価値が生まれてくる」、と歓迎すべき変化だと捉えています。

ロボット分野はコロナ禍で苦戦した時期もありますが、現在は新たな商談が増えています。この分野の強みは大学や研究機関、海外の研究プロジェクトとの協働が可能な点で、今後の展開が大いに期待できます。

また前年度から立てていた方針の「GX+DXの推進」と「Global」が、予想以上の進展を見せています。

GX・Globalについては、川田工業が提供する屋上緑化システム「みどりちゃん」が好評です。雨水自然循環方式で基本的に水やりが不要なエコシステムということもあり、国内外で200件以上の実績を持っています。現在、北米、中東などにおいて試験施工を行っており、将来の展開に期待しています。

DXについては、人型ロボットを研究していた社員が建設現場での品質や効率向上のためにソフトウェア、ハードウェアを含めた開発を手がけています。

具体例として、吊荷ロープ介錯装置「EGガイド」があります。長い鉄骨などの吊荷をクレーンで移動させる際の回転や揺れを防ぐためには、これまで地上にいる複数の作業員が吊荷をロープで制御する必要がありましたが、人力の限界があるうえ、安全性にも懸念がありました。そこで移動する吊荷に追従して介錯ロープを的確に繰り出す装置を開発しました。これにより、1人のオペレーターで吊荷の移動をより安全に補助できるようになり、作業の効率化と施工性向上を実現しています。

こういった新製品は土木、建築現場のニーズを的確に反映しているので、他社での需要も見込まれ、今後は外部へのレンタルや販売を目指しています。ソフトとハードの両面からものづくりができることが、川田グループの優れた特長であると自負しております。

Q サステナビリティ経営についてお聞かせください。

A 人材育成とダイバーシティを通して持続可能な社会の実現を目指します。

サステナビリティ経営に取り組むため、2023年3月、川田グループのマテリアリティ(重要課題)を特定いたしました。ここで想定される極めて重要な課題の中に、「社会・技術インフラを支える人材育成とテクノロジー開発」があります。

当社グループの力の源は言うまでもなく「人材」です。社員のスキルアップを可能とする人事の仕組みを活用し、海外の企業で研修する社員もいれば、海外から当社に来て学ぶ人もいます。また研究部門や技術畑の社員は、業務を極めて博士号を取得する例もあります。さらに定期的にイノベーション委員会を開催し、グループ各社のトップレベルの技術者による新技術の発表と交流を行っています。鉄や橋梁の技術、ソフトウェア、ロボット技術など、多様なバックグラウンドを持つ人間が集うことで、異業種間のコラボが生まれることもあります。

当社グループは多種多様な業界で仕事を行っているため、そこが「川田らしさ」となり、ダイバーシティがますます強みとして認識されるようになっていきます。同時に社会のレジリエンスの強化、生物多様性と地球環境への貢献、人権尊重といった重要課題にも取り組まなければなりません。サステナビリティ基本方針にも掲げた「八方よし」の精神で持続可能な社会の実現とグループの成長を目指してまいります。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

A 株主の皆様の継続的なご支援に感謝し企業価値創造へと邁進します。

当社グループは鉄構・土木セグメント等において、複数年にわたる事業を行っていることから、単年度で見ると売上や損益が大きく変動する可能性があります。そのため中期経

営計画の数値目標は3か年の累計や平均等としています。そのような状況下、株主の皆様への利益還元は最重要施策の1つであるとの認識から、連結配当性向30%を目処に安定配当を実施いたします。第3次中期経営計画初年度におきましては、1株当たり393円の配当金とするとともに、同計画の残りの期間においては、配当性向の考え方を継続しつつ、1株当たり配当金の下限を年間90円とすることといたしました。また、投資単元価格を抑え、より投資しやすい環境を整えるため、2024年4月1日に普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行いました。

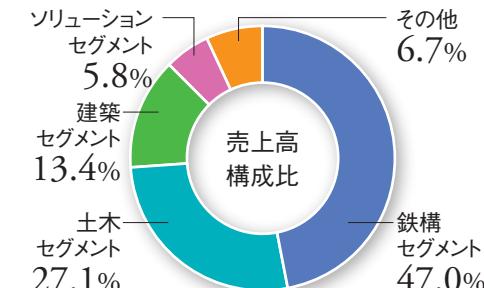
当社の株式を長く保有して下さる株主の皆様には、継続的なサポートをいただき本当に感謝しております。また新しい株主の皆様には、当社グループの考え方にぜひ共感いただき、長くご支援いただけますよう、グループ一丸となって努力してまいります。

当社グループの成長と発展は、株主の皆様のご理解とご信頼の賜物です。引き続き厚いご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

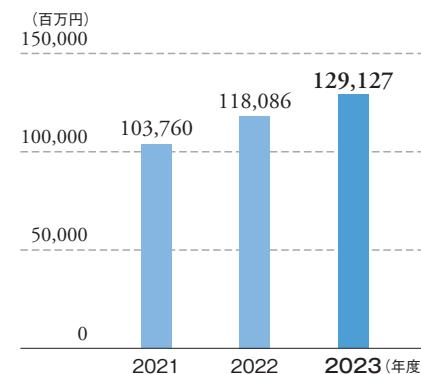


決算のポイント

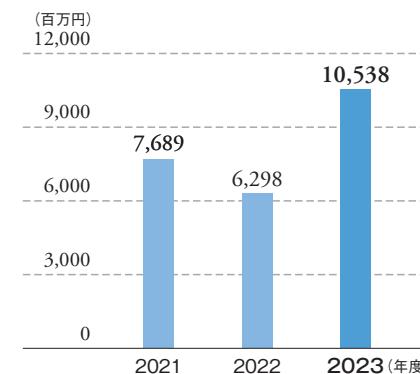
- 期を通じて大型工事が概ね順調に進捗し売上高増加
- 鉄構セグメント、土木セグメントで大型設計変更獲得、利益増加
- 受注は土木セグメントで苦戦するも、他でカバーし全体では増加
- 1株当たり393円(配当性向30.2%)の期末配当



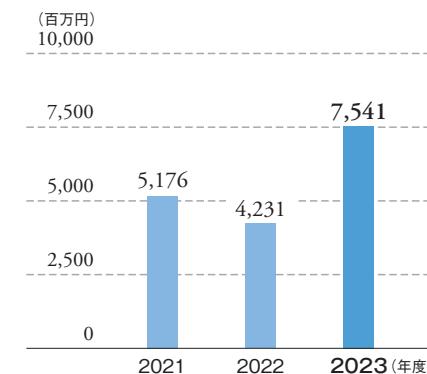
売上高



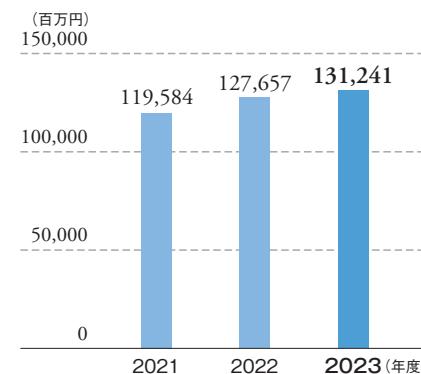
経常利益



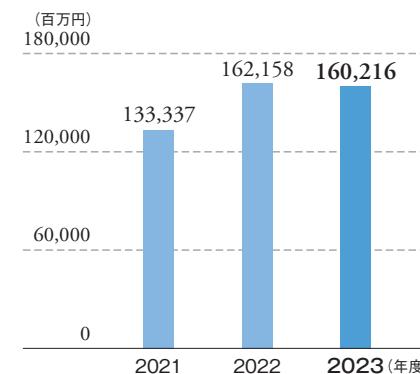
親会社株主に帰属する当期純利益



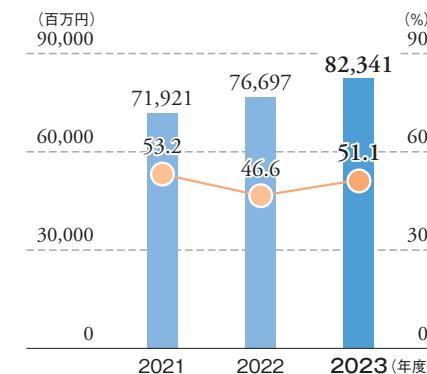
受注高



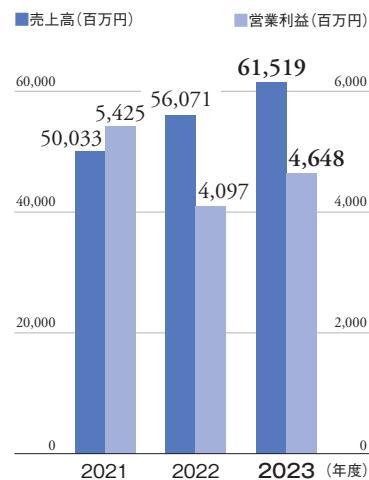
総資産



純資産/自己資本比率



鉄構セグメント



売上高は、鉄骨事業において首都圏の大型再開発工事が順調に進捗し、また橋梁事業においても高速道路会社の大型新設工事や当社製品合成床版の製作が順調に進捗したことで61,519百万円（前連結会計年度比9.7%増）となりました。損益面では、大型工事において設計変更が獲得できたことで営業利益4,648百万円（同13.5%増）となりました。

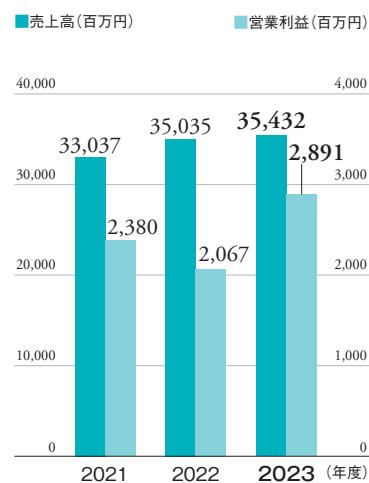
主な連結子会社：川田工業株式会社



千丈高架橋(愛媛県)

売上高 61,519百万円 営業利益 4,648百万円

土木セグメント



売上高は、更新工事と保全工事が順調に進捗し、特にこれらの大型工事において設計変更を獲得できたことにより35,432百万円（前連結会計年度比1.1%増）となりました。損益面も、これらの設計変更が寄与し営業利益2,891百万円（同39.9%増）となりました。

主な連結子会社：川田建設株式会社



上信越自動車道 観音沢川橋床版取替工事
(東日本高速道路株式会社)

売上高 35,432百万円 営業利益 2,891百万円

(注) P7-8のセグメント業績につきましては、セグメント間の内部売上高等を含めて記載しております。

建築セグメント



大型システム建築に加え多層階大型物流倉庫の順調な進捗で売上高17,601百万円（前連結会計年度比24.3%増）、損益面は大型工事での原価改善や採算性の良い工事の進捗で営業利益1,574百万円（前連結会計年度は営業損失423百万円）といずれも大きく改善いたしました。

主な連結子会社：川田工業株式会社



TAO望遠鏡観測運用棟建築(チリ共和国)
東京大学TAOプロジェクト提供

売上高 17,601百万円 営業利益 1,574百万円

ソリューションセグメント



ソフトウェア関連事業においては3次元CADのソフトウェア販売に加え、受発注者間で情報を共有できるCloudサービス事業が好調に推移しました。ロボット関連事業につきましても販売台数を伸ばすことができたことで、売上高7,550百万円（前連結会計年度比18.5%増）、営業利益2,919百万円（同42.6%増）といずれも大幅に増加いたしました。

主な連結子会社：川田テクノシステム株式会社／カワダロボティクス株式会社

売上高 7,550百万円 営業利益 2,919百万円

その他

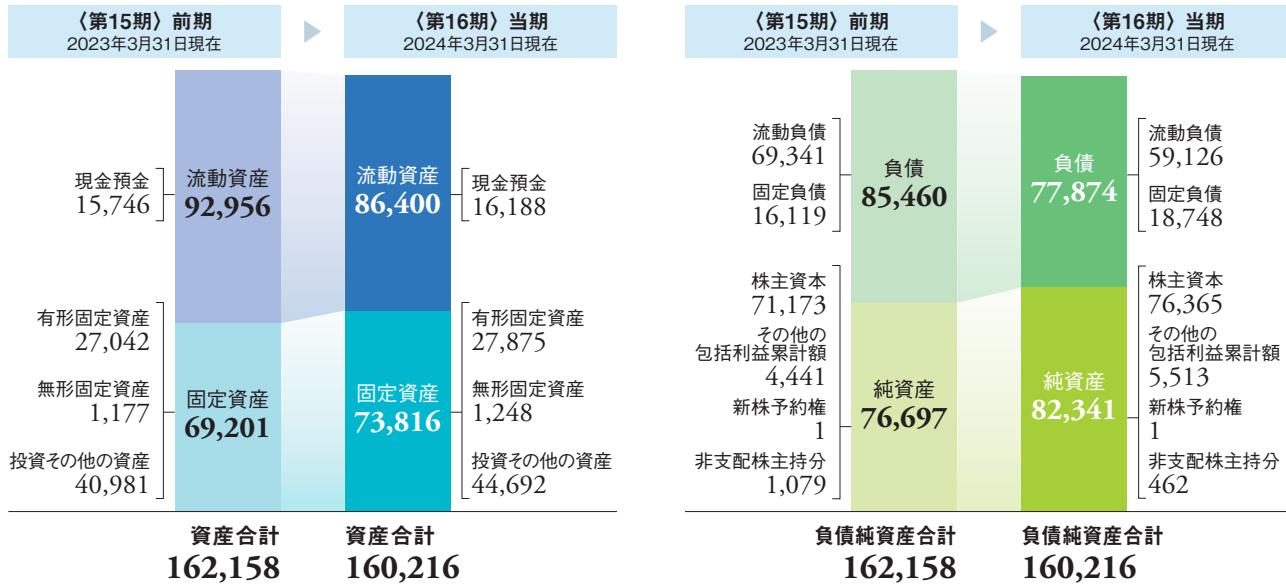


航空機使用事業において、ドクターヘリや訓練事業が順調に推移しましたが、定期路線事業の機体用部品価格の高騰による原価増などで、売上高8,772百万円（前連結会計年度比9.8%増）、営業損失436百万円（前連結会計年度は営業損失162百万円）となりました。なお、定期路線事業に係る営業損失は、補助金収入により経常損益段階では相当部分が解消しております。

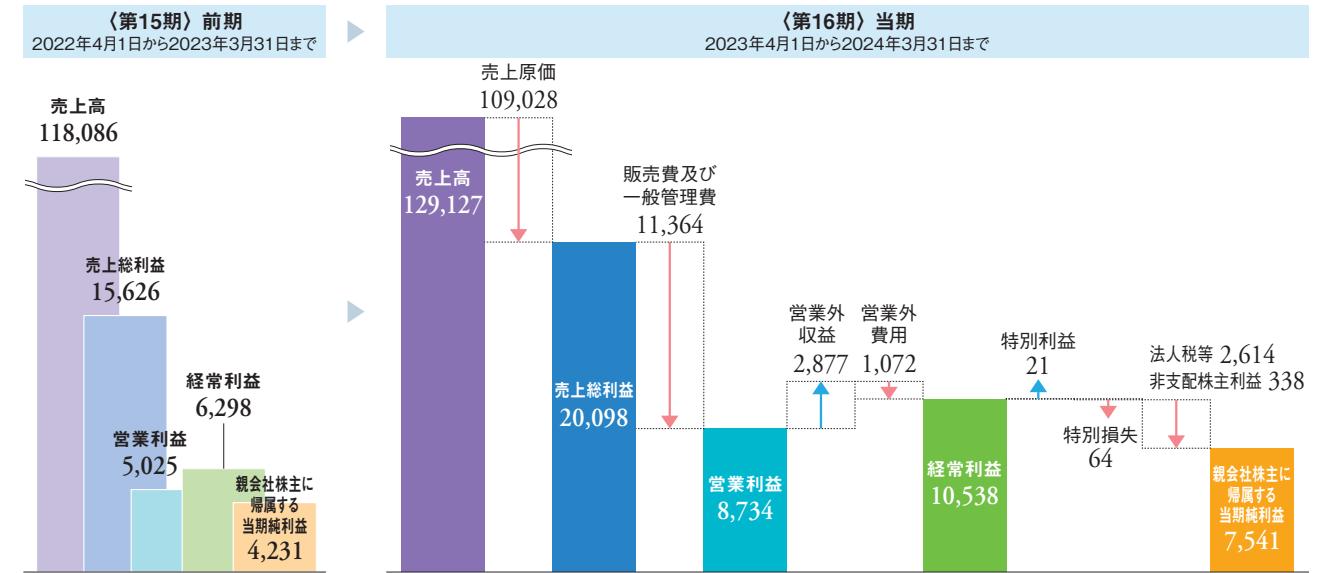
主な連結子会社：株式会社橋梁メンテナンス／東邦航空株式会社／新中央航空株式会社

売上高 8,772百万円 営業損失 436百万円

連結貸借対照表の概要 (単位: 百万円)



連結損益計算書の概要 (単位: 百万円)



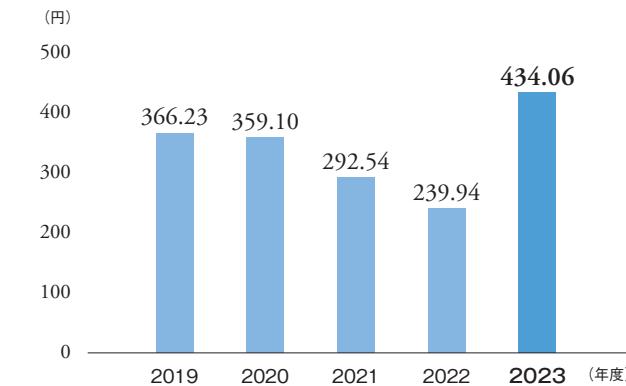
連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位: 百万円)



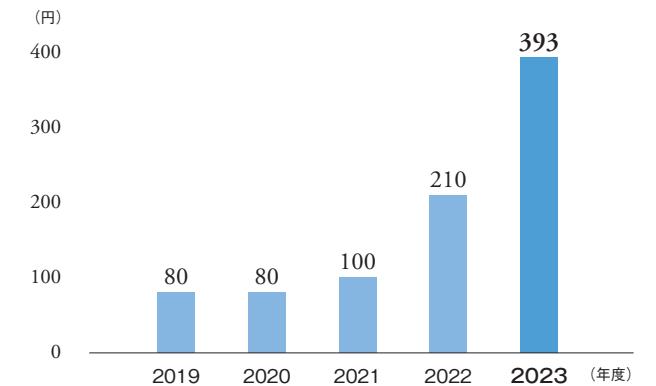
(注) △印は、マイナスを示しています。

- **営業活動によるキャッシュ・フロー**
13,320百万円の資金増加(前期は9,673百万円の資金減少)となりました。これは主に、売上債権の減少等によるものであります。
- **投資活動によるキャッシュ・フロー**
2,553百万円の資金減少(前期は1,504百万円の資金減少)となりました。これは主に、設備投資による固定資産の取得等によるものであります。
- **財務活動によるキャッシュ・フロー**
10,337百万円の資金減少(前期は12,213百万円の資金増加)となりました。これは主に、借入金の返済等によるものであります。

1株当たり当期純利益



1株当たり配当額



(注) 2024年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っています。「1株当たり当期純利益」については2019年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。「1株当たり配当額」については当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しています。

特集

北陸新幹線 金沢-敦賀間 開業

2024年3月16日に北陸新幹線
金沢-敦賀間が開業しました。

東京-敦賀間の所要時間が50分短縮され、
最短で3時間8分となります。

2015年の長野・金沢間の開業に引き続き、
北陸地方のビジネスや観光の
更なる活性化が期待されています。

この延伸ルートの施工にも
川田グループが携わっていますので
工事実績をご紹介します。



③ 鞍谷川橋りょう
送り出し架設で自社開発の「パンタグラフ式手延べ機」を初めて使用しました。



⑥ 第1橋橋りょう
現場付近に製作ヤードを設け10橋分42本の桁を現地で製作し、トラッククレーンで架設しました。



⑦ 手取川橋りょう他
金沢駅と小松駅の間にある、この延伸ルート内で最長(全長558m)の橋です。

川田工業

- ① 第1犬丸橋りょう(合成けた)
石川県小松市
工事期間：2017年7月～2020年3月
- ② 第1長屋橋りょう(合成けた)
福井県坂井市
工事期間：2018年1月～2021年1月
- ③ 鞍谷川橋りょう(合成けた)
福井県鯖江市、越前市
工事期間：2018年1月～2020年9月
- ④ 武生橋りょう(合成けた)
福井県越前市
工事期間：2019年1月～2021年7月
- ⑤ 敦賀駅新築工事
福井県敦賀市
工事期間：2020年4月～2023年1月

川田建設

- ⑥ 第1橋橋りょう(PCけた)
石川県金沢市
工事期間：2017年8月～2019年8月
- ⑦ 手取川橋りょう他
石川県能美市
工事期間：2015年8月～2022年1月
- ⑧ 竹田川橋りょう他
福井県あわら市
工事期間：2018年7月～2019年10月
- ⑨ 福井橋りょう他
福井県福井市
工事期間：2019年12月～2021年7月

長野・金沢間 工事実績

川田工業

- ⑩ 白山車両基地
石川県白山市

川田建設

- ⑪ 折達Bv外2Cp他
石川県金沢市
- ⑫ 弥勒Bv外1Cp製架他
石川県金沢市
- ⑬ 黒瀬川橋りょう外8か所(PCけた)
富山県黒部市
- ⑭ 高岡諏訪佐野高架橋
富山県高岡市
- ⑮ 滑川上梅沢橋りょう外12箇所(PCけた)
富山県滑川市
- ⑯ 高岡下黒田高架橋
富山県高岡市
- ⑰ 富山五本榎橋りょう外12箇所(PCけた)他
富山県富山市
- ⑱ 富山鍋田橋りょう外11箇所(PCけた)
富山県富山市

発注：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構(JRJT)

会社の概要 (2024年3月31日現在)

商号 川田テクノロジーズ株式会社
KAWADA TECHNOLOGIES, INC.

事業内容 鋼製・PC橋梁及び建築鉄骨の設計・製作・架設・据付、一般建築・システム建築、土木建設関連ソフトウェア開発等を営むグループ企業の経営計画・管理並びにそれらに附帯する業務

設立 2009年2月

所在地 【東京本社】
〒114-8563
東京都北区滝野川一丁目3番11号
TEL: 03-3915-7722
【富山本社】
〒939-1593
富山県南砺市苗島4610番地
TEL: 0763-22-8822

資本金 5,311,419,500円

決算期 3月31日

従業員数 94名(連結2,373名)

代表者及び役員 (2024年6月27日時点)

代表取締役社長 川田 忠裕

常務取締役 渡邊 敏

取締役 川田 琢哉

取締役 宮田 謙作

取締役(社外) 山川 隆久

取締役(社外) 高桑 幸一

取締役(社外) 麦野 英順

取締役 岡田 敏成

取締役(社外) 福地 啓子

取締役(社外) 勝野めぐみ

■ 監査等委員である取締役

川田グループの全体像



株式の状況 (2024年3月31日現在) ※2024年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが株式分割前の数値を記載しています。

発行可能株式総数 20,000,000株

発行済株式の総数 5,928,070株

株主数 5,949名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	639	11.13
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	455	7.94
株式会社北陸銀行	283	4.95
株式会社三菱UFJ銀行	265	4.63
川田テクノロジーズ社員持株会	212	3.70
川田工業協会持株会	209	3.65
富士前商事株式会社	141	2.47
三菱UFJ信託銀行株式会社	100	1.74
日本製鉄株式会社	93	1.63
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	87	1.53

※持株比率は自己株式(186,183株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

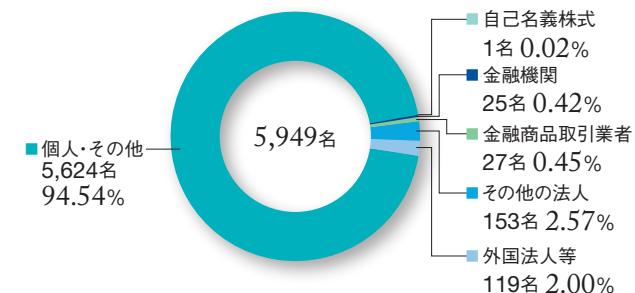
期末配当金支払株主確定日 3月31日

定時株主総会 毎年6月

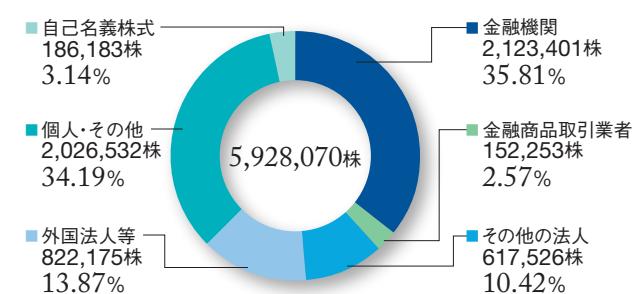
株主名簿管理人、特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先
(連絡先)
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
TEL: 0120-232-711 (フリーダイヤル)
(郵送先)
〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

株主数構成比



株式数構成比



上場証券取引所 東京証券取引所プライム市場

単元株式数 100株

公告の方法 電子公告により行う
公告掲載 URL <https://www.kawada.jp>

(ただし、電子公告によることができない事故、そのほかのやむを得ない事由が生じた時は、日本経済新聞に掲載いたします。)

- ご注意
- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求そのほか各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ります。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取り扱いいたします。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。